

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第 8 条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

○氏名	清水 嘉江子（しみず かえこ）
○学位の種類	博士（文学）
○授与番号	甲 第 974 号
○授与年月日	2014 年 3 月 31 日
○学位授与の要件	本学学位規程第 18 条第 1 項 学位規則第 4 条第 1 項
○学位論文の題名	墓誌銘より見たる宋代女性像について
○審査委員	（主査）松本 保宣（立命館大学文学部教授） 鷹取 祐司（立命館大学文学部教授） 本田 治（立命館大学文学部特別任用教授）

<論文の内容の要旨>

本論文は、北宋・南宋併せた宋人の文集を博捜し、1075 人の宋代女性墓誌を網羅して分析を加えた意欲的な女性史研究である。目次は以下の通りである。

序章

第一章 死亡年齢と結婚年齢

第二章 婚姻関係と地理的範囲

第三章 婚姻の階層的範囲

第四章 守節、再婚、離婚

第五章 宋代女性の出産と養育

第六章 子どもの教育と学問

第七章 家庭での行状

第八章 近親者が記した墓誌銘

終章

参考史料、参考文献

以下、その概要を記す。

第一章は、宋代女性の平均寿命について、先行研究である陶晋生氏論考を検証したものである。陶氏は『欧陽文忠公集』・『温国文正司馬公集』・『范太史集』三書の婦女 112 人の平均死亡年齢を 37 歳と算出し、一方『曾鞏集』24 人の平均年齢が 59 歳となり、その差 22 歳が生じる。しかし陶氏は、それに対してなんらの考察もなされていない。著者はこの間

題を検討した結果、『歐陽文忠公集』・『范太史集』には宗室女性墓誌銘が含まれていることによって、『曾鞏集』との間に平均年齢の差が生じることを解明した。宗室女性は、死去すると自動的に墓誌銘が撰述され、その死亡平均年齢は33歳と短いからである。また、宗室女性の墓誌銘は北宋のみ記されているために、宋代女性の平均死亡年齢は、北宋49歳、南宋63歳と差が生じることが判明した。

第二章・第三章において、北宋から南宋に至り婚姻の実態に変化が生じ、北宋期に見られた、高官が地域をまたいで婚姻関係を結ぶ事象が南宋では減少し、婚姻が同じ県内で行われるようになる。また、南宋になると科挙合格者を出すことは一家から傍系の親族や姻戚も含めて行われるようになることを指摘した。

第四章において、既婚女性1018人の墓誌銘から集計作業を行い、再婚者7人と守節者101人の事例を得た。結果、宋学の影響のもと守節者が増大することが確認できたが、再婚者7人の墓誌銘自体には、再婚を失節とみなす記述が無いことが見いだされた。

第五章において宋代女性の平均的な子供の人数は北宋6人、南宋5人であり、北宋は多産の宗室女性を含む故に平均値を上げていることが判明した。また、墓誌銘に記された子供の数は妾が生んだ事例を含むものであり、妻が実際に生んだ子供の数を「生」の字を冠した文例で判別すると、女性1人当たりの子供の数は4.7人となり、民国17年(1928)に行われた河北省定県社会概況調査の平均人数4.78人と差がないことが判明した。

第六章において、子供の家庭教育に携わった女性は、北宋が116/551名、南宋が106/467名で、両宋併せて222/1018名であり、2割以上の女性が子供の教育に従事している。これは母親自体に学問があつてのことであり、北宋士大夫の著述でも女子教育について言及されている。墓誌銘にみえる女性が読んだ書物は詩経など儒教経典が主で、男児の科挙試験の勉強に母親が役割を担ったことが判る。

第七章・第八章において、女性は生家にあつては父母に事え、婚家にあつては舅姑に事えることが重視され、墓誌銘によると両宋では356/1018名が舅姑に仕えている。墓誌銘の記載は、女訓書に記述される模範的な女性像と一致し、画一的な記載が多い。そうした事例は執筆者が家族から依頼されて撰述したものに多く見られるが、130/1075名の墓誌銘は近親者が執筆しており、あまり美辞麗句が見られないのが特徴である。

以上、両宋の女性墓誌銘を検討して得られた結論は、婚姻関係と地理的範囲・婚姻の階層性などの諸点において、北宋と南宋との間に相違が見られることである。それは社会の中核をなす士大夫層の意識が、北宋の中央官僚としての視点から、南宋の地域エリートのそれへと移行し、中央重視から地域重視へと、士大夫の志向の転換をもたらしたことを物語る、と総括している。

<論文審査の結果の要旨>

本論文は東洋史専攻で、最初に社会人入学者が出した学位論文である。請求者は学部入学以来、倦まず精進しつづけ、ここに論文提出に至ったことは評価できる。

従前の研究史の観点から述べると、中国史の転換点としての宋代は、社会史研究が盛んで、そのなかに女性史分野が含まれてきた。また近年の中国史研究のフロンティア領域として女性史研究への関心の強まりとあいまって、宋代女性史分野では多くの研究成果が発表されている。その意味で本論文は時宜を得た研究といえる。

本論文の第一の特徴は、その基本史料として伝記的史料、特に墓誌銘に依拠している点である。墓誌銘は従来から宋代史研究に使用されてきたが、その属性の故にあくまでも補助的な使用に限定すべきものとされてきた。特に被葬者の評価に関する記述は、墓誌銘の史料としての信頼性を低くし、使用を躊躇わせる傾向があった。しかし本論文では、これまで部分的な使用に止まってきた、膨大な墓誌銘史料を網羅的に利用している。これは墓誌銘のそうした制約を認めたとあわせて、他の史料にない情報源として、再評価する近年の宋代史学界の動向に沿ったものである。使用に際しては墓誌銘のもたらす情報のうち、評価の入りにくい出生年、死亡年と死亡場所、埋葬地、本貫地、結婚年、祖父・父・配偶者の姓名・経歴、養育した子供の姓名・数・経歴などの情報に限定しており、本論文の結論の蓋然性は高く、長年にわたり膨大な墓誌銘史料を収集し、整序し、集計し、有意の傾向を読み取るという根気のいる作業を継続し、一応の結論を出した点は評価できる。

先行研究においても、これまでも宋代女性の平均寿命の推定はなされてきたが、使用されるサンプル数が少ないこと、使用する墓誌銘の選択基準が不明であるなどの点から、十分な信頼性をもつ数字とは言えなかった。本論文は、残存する宋代女性の墓誌銘の網羅的な検証によって、より確実な平均寿命を算出し、先行論文を修正することができた。これは、本論文の特筆すべき意義である。また残存する北宋時代の未成人女性の墓誌銘の多くは、皇室関係者であることを発見したこと、先行研究がこれらを無自覚的に一般墓誌銘と混合して集計して北宋女性の平均寿命を算出している点を指摘できたことも、本論文の成果と言える。皇室関係者の墓誌銘が著しく少ない南宋の平均値と比較する場合、修正が必要であり、宗室関係の女性墓誌銘の史料上のバイアスを明らかにした点も評価できる。

結婚年齢についても先行研究がいくつか存するが、平均寿命の項目で指摘した同じ弱点を有する。本論文の使用するサンプル数は圧倒的に多く、算出結果の蓋然性の高さは信頼できる。また結婚年齢の表示に使用された笄（ケイ）が女性の成人通過儀礼であり十五歳であることを確認し、数多くの事例を算出の基礎に取りこむことができたことも、結果の信頼性を高くすることになった。

婚姻関係の空間的広がりについて、北宋と南宋において明確な違いが存することを明らかにした点は評価できる。この事実はロバート・ハイムズが南宋撫州の地方エリート研究において部分的に指摘していたが、著者は両宋時代墓誌銘の網羅的検証によって、その事実を明確に論証した。このことは南北両宋時代の士大夫層の社会や国家とのかかわり方が大きく変わったとする、近年欧米における宋代史研究の動向とも一致する。

墓誌銘に記載された子供の数が近代の統計とかなりかけ離れていること、墓誌銘の数字がそのまま実子の数でなく、基本的に嫡庶をあわせた数字であることを確認し、「生」を伴

う数字が近代の統計結果と近接しており、実子数であろうことを推測していることも成果である。

以上のように本論文が優れた内容をもつ研究であることはいうまでもないが、以下に述べるようにいくつかの瑕疵の存在も指摘しておかねばならない。

本論文で、全体に各章の問題点の所在、先行論文との違い、結論が明確に整理されていない点が多岐にわたる。論争的論文の体裁をとっていないことが主な原因であるが、個別論文として発表する場合は工夫を要する。墓誌銘の考察から判明した問題点を述べた後に、先行研究を指摘した事実が妥当であることを示すような形式で引用されているが、前記「論争的論文の体裁」を採るならば、順番を逆にして論考を組み立てるべきであろう。

以上のような問題点が存在するものの、本論文全体の価値を減じるものではなく、本論文で示された知見は、十分学術的価値あるものと結論するものである。

<試験または学力確認の結果の要旨>

本論文の公開審査は2014年6月28日(土)午後2時から4時40分まで、末川記念会館第2会議室で行われた。審査委員会は、本学大学院文学研究科人文学専攻博士課程後期課程の在学期間中における学会発表などの様々な研究活動、本論文で呈示された古典漢文・外国語論文の読解などによる外国語の運用能力、また公開審査の質疑応答を通して、博士学位に相応しい能力を有することを確認し、本学学位規程第25条第1項により、これに関わる試験の全部を免除した。

以上の点を総合的に判断して、審査委員会は申請者に対して、本学学位規程第18条第1項に基づいて、「博士(文学 立命館大学)」の学位を授与することが適当であると判断する。